



令和5年度（2023年度）

少女まんが館実施計画書参考資料 1/5

「少女まんが館蔵書の整理・メタデータ化プロジェクト」事業の概要図とフロー

少女まんが館の 所蔵状況



次々と寄贈書が届き、未整理の段ボール箱が館内や別棟の臨時整理小屋の中に溢れている。

背景

関連他施設になく、本館にのみ収蔵の、貴重な蔵書が存在が判明。萩尾望都のデビュー作品掲載雑誌や明治時代の少女雑誌群。未整理段ボール箱の中にオンリーワンが含まれている可能性が高い。早急に蔵書整理すべき時にきている。

整理作業

入力作業

明治時代から2000年までに発行された少女雑誌、少女マンガ雑誌、貸本、付録等が入った段ボール箱300箱・本棚100本・プラケース90箱等の整理分類。
(昭和時代までの重複分の一部を熱海分室へ移動)

蔵書リスト作成
(メディア芸術データベース等を活用)
データベース化
(雑誌2000冊以上)

【プロジェクト体制】

- ◇進行管理・事務局 有限会社さるすべり
- ◇資料出納・作業場所 少女まんが館
- ◇デジタル化とウェブ構築 ねりまど〜るずインターネット

一般公開

登録

開架式書架の見やすさ、検索性の向上

蔵書の全体像把握
冊数確認
貴重本発掘

蔵書リスト公開
蔵書検索可能に

メディア芸術データベースの欠号を補う

効果

- 少女マンガ専門の私設図書館として、その内実が社会的にさらに認知される。
- 少女雑誌・少女マンガ愛好家やその研究者、女性問題やジェンダー研究にとって、貴重な一次資料を手軽に閲覧できる場所となり、利用しやすくなる。
- 世界に類を見ない日本独自の「少女マンガ」の文化的資産価値が高まる。





令和5年度(2023年度)

少女まんが館実施計画書参考資料

2/5

昭和時代の貴重な少女マンガ雑誌 (萩尾望都デビュー作品掲載号)



『なかよし』
1969年8月増刊号。この巻号は
関連他施設*にない。

関連他施設
国立国会図書館

菊陽町図書館(少女雑誌コレクション)

大阪府立中央図書館 国際児童文学館

明治大学 米澤嘉博記念図書館

明治大学 現代マンガ図書館

京都国際マンガミュージアム

北海道立図書館



令和5年度（2023年度）

少女まんが館実施計画書参考資料

3/5

明治時代の貴重な少女雑誌



『少女界』明治45年5月号。表紙なしだが、関連他施設*になし。



少女マンガ雑誌のルーツは戦前の少女雑誌にある。日本初の少女雑誌『少女界』明治44年6～8月号。この巻号は関連他施設*にない。
* 国立国会図書館／菊陽町図書館（少女雑誌コレクション）／大阪府立中央図書館国際児童文学館／米澤嘉博記念図書館／京都国際マンガミュージアム／日本近代文学館／神奈川近代文学館



令和5年度（2023年度）

少女まんが館実施計画書参考資料 4/5

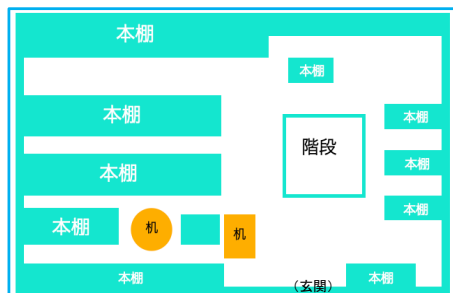
「少女まんが館」紹介



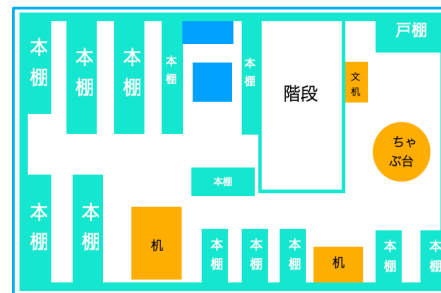
正面玄関（上）と2階閲覧コーナー（下）



1階概略図



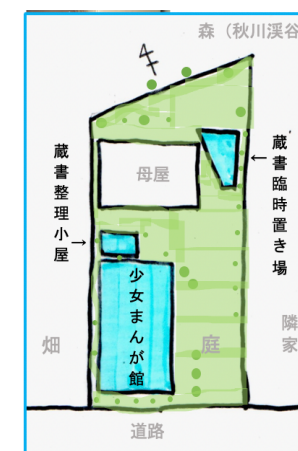
2階概略図



外観（本館と蔵書整理小屋）



蔵書整理小屋
（上）と蔵書臨時
置き場（右）



少女まんが館（東京都あきる野市）は新宿から電車で約1時間、最寄駅はJR五日市線武蔵増戸駅。100坪の土地に本館（木造2階建、延べ面積24坪）、蔵書整理小屋（1.5坪）、蔵書臨時置き場（2坪）がある。3つの建物に本棚100本・プラケース90箱・未整理段ボール箱300箱あまり。



令和5年度（2023年度）

「少女まんが館」のおもな歩み

1989年	有限会社さるすべり設立（中野純・大井夏代） 雑誌や書籍の企画・編集・執筆
1991年	中野純・大井夏代入籍。大井は中野姓となるが旧姓・大井夏代のまま仕事を続ける
1997年	有志10人で少女まんが館を創設 少女まんが世界の永久保存を目指す →東京都西多摩郡日の出町の古民家を借り受ける →少女まんがファンからの寄贈などにより蔵書を収集 →中野夫婦の社会活動（事業化せず）
2002年	少女マンガ専門の私設図書館として、一般公開スタート （毎木曜日、入館無料、閲覧のみ） →有限会社さるすべり、事務所を日の出町へ移転 →中野夫婦で少女まんが館に住み込み、管理運営を担う
2009年	少女まんが館（有限会社さるすべり）東京都あきる野市へ移転 →中野純・大井夏代（共同館主）で土地を取得、敷地内に木造2階建てを新築 →日の出町の古民家を引き払い、蔵書約3万冊をあきる野市の新築建物へ移動 →以後、4～10月の毎土曜日に一般公開（入館無料、閲覧のみ）
2011年	明治～平成時代の作品群の大量寄贈を受け始める →飛躍的に蔵書数が増え、コミックス（単行本）ばかりでなく、雑誌や貸本、関連書籍等が充実
2012年	館内イベント「小さな茶話会」スタート →少女まんがについて語る少女まんがファンによる気軽な井戸端会議。以後、年1～3回実施
2015年	来館者急増により予約制を導入 「少女まんが館TAKI1735」（三重県多気郡多気町）オープン →2000年以降の蔵書を大量寄贈し、姉妹館としてゆるく連携（「Cafe1735」併設）
2018年	「少女まんが館Saga」（佐賀県唐津市）オープン →「唐津ゲストハウス」を併設、歴史テーマの少女マンガを収集、姉妹館としてゆるく連携 *創設以後、雑誌、新聞、テレビ等、マスコミ・メディア取材多数 →日本経済新聞、東京新聞、ジャパンタイムズ、NHK、読売テレビ、フジテレビ、ネットサイト等
2022年	収蔵能力限界、昭和時代までの重複分収蔵場所「熱海分室」を準備 蔵書6万冊超（推計）、延べ一般公開日約800日、延べ来館者5000人超
2023年	「少女まんが館」を事業化 →蔵書を整理分類、メタデータ化する

1997年9月～ ホームページ ●<https://www.nerimadors.or.jp/~jomakan/>
 2010年10月～ ツイッター ●<https://twitter.com/shoujomangan>
 2011年6月～ フェイスブック ●<https://www.facebook.com/Jomakan>
 2018年5月～ インスタグラム ●<https://www.instagram.com/shoujomangan/>



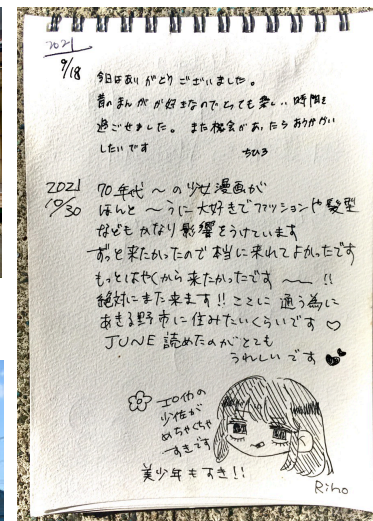
少女まんが館実施計画書参考資料 5/5



古民家を借りて創設。旧・少女まんが館（東京都西多摩郡日の出町）



2009年、竣工直後の新・少女まんが館（東京都あきる野市）



自由ノートに記された来館者の声。（小学校高学年女子と50代女性）



現在の館内風景。（上）勝手口～玄関まわりに段ボール箱の山が……。/（左）2階のプラスチックケース置き場。付録や切り抜きファイル、戦前の少女雑誌等を、ほぼ未整理のまま収蔵。段ボール箱も多数。